

復興加速化プロジェクト「ICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくり - 釜石モデルをもとに岩手県全域での普及を目指して」 (研究代表者：社会福祉学部 小川晃子)

本プロジェクトは、平成27年度クアルコム社の助成「釜石市平田地区での重層的見守りプロジェクト」と、(株)NTTドコモによるポータルサイト構築と連動しています。

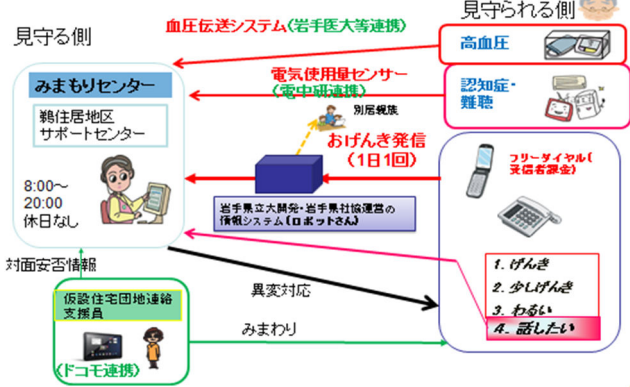
取組の目的・概要

被災地で大きな課題となっている高齢者の社会的孤立を防ぎ、生活支援型コミュニティづくりを進めるために、人的見守りとICT（情報通信技術）を活用した見守りを重層的・一体的に再構築する。釜石・一関で取り組みを進め、県内全域での普及を目指す。

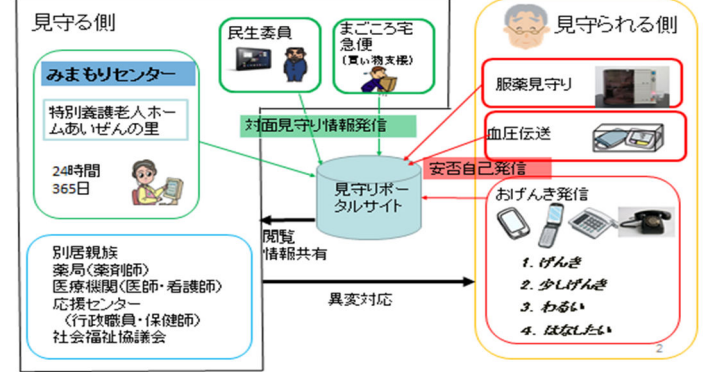
取組内容

- 岩手県保健福祉部・釜石市・一関市等と連携し、医療・福祉・情報技術の専門家によるプロジェクト体制で取り組む。
- 釜石市では、鶴住居・平田地区の取り組みを継続しながら、唐丹地区等で新たな重層的見守りの実証実験を行う。
- 一関市では、市外（気仙地区）からの避難者と、市内での被災者の2グループで重層的見守りの実証実験を行う。
- 釜石市・一関市とも、当事者や行政・医療・福祉の専門職・専門機関等と対話を進め、地域包括ケアシステムづくりのなかで普及する方法を検討する。
- いわて未来づくり機構や日本遠隔医療学会等で成果報告をし、全県の・全国的な普及を目指す。

釜石市鶴住居地区で構築した重層的見守り体制



釜石市平田地区で構築した重層的見守り体制



H26/27復興加速化プロジェクト「釜石地区におけるICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくり」成果

